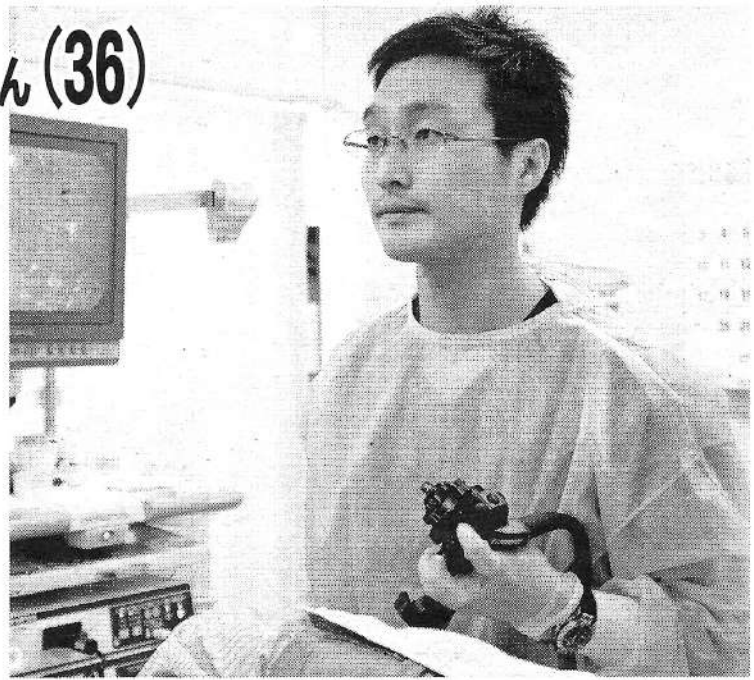


メディカルトピア草加病院 内視鏡診療部長 吉田智彦さん(36)



東武スカイツリーライン・谷きりーダー。

塚駅から徒歩3分。瀟洒で近代的な造りが目を引くメディカルトピア草加病院は、80の病床と13の診療科を持つ、開設5年目の地域密着型民間病院。今回紹介する吉田智彦医師は、

内視鏡でがんの早期発見を 苦しめない検査に自信

ここで年間5300件行われている内視鏡検査・治療部門の若

見に余念がない。

「早期がんは症状がないので、自分から検査を受けようと思わない限り見つけれません。

「苦しめない検査」には自信があるので、怖がらずに相談してほしい」と語る吉田医師。

苦痛のない内視鏡検査を実現すべく、検査前に口から入れるタイプと鼻から入れるタイプのどちらを選ぶか、あるいは鎮静剤の使用などを患者自身に選んでもらい、患者のニーズに合わせた高品質の検査に力を入れる。

よしだ・ともひこ
1980年、東京都世田谷区生まれ。2004年、昭和大学医学部卒業。同大附属豊洲病院（現・同大江東豊洲病院）、癌研究会有明病院（がん研究会有明病院）に勤務。昭和大学大学院を経て、14年より現職。日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会関東地方会評議員・専門医・指導医、日本消化管学会認定医・専門医・指導医他。趣味は「子育て」。

「一例一例をきちんと丁寧に扱うことで患者数は増えると思ふし、事実、急速に検査希望者数が増えています」（吉田医師）
内視鏡治療にも強いこだわりがあり、内視鏡で切除できると判断した症例は、最後まであきらめずに完遂する。現在の病院に来て約200例の内視鏡によるがんなどの切除術に携わったが、全症例を自身の手で終わらせている。

「検査も治療も一期一会。だから絶対に手は抜けない。その結果『困ったときはあの時の先生』と思いついてもらえればうれしい」と笑う。

大腸内視鏡検査では、炭酸ガスを使うことで膨満感を伴わない快適な検査を行う。

上部消化管ともども、早期がんの発

（長田昭二）

